

アオカタビロオサムシ

Calosoma inquisitor cyanescens Motschulsky

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少

【形態】 体長18~25mm。体は通常、顕著な緑・銅色を帯び、特に腹面で著しい。

【分布】 北海道と中部以北の本州に分布している。

【県内の分布、生息状況】 会津と浜通りの山地から見つかった。主に樹葉上で生活しており、ガの幼虫等を捕食している。

【主要文献】

小倉直樹(1981)阿武隈山地でアオカタビロオサムシを採集。月刊むし, (122): 33.

希少 コウチュウ目 オサムシ科

チョウカイヒメクロオサムシ

Leptocarabus opaculus shirahatai (Nakane)

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少 b 生息地が局限

【形態】 体長15~20mm。体色は黒色で背面は光沢が鈍く、前胸背板が鈍い緑色または紫色を帯びることがある。北海道産とは亜種が異なっている。

【分布】 北海道と本州(東北地方と新潟県)に分布している。北海道では平地にもいるが、東北地方では山地の高所に生息している。

【県内の分布、生息状況】 吾妻山系と飯豊山系から見つかった。吾妻山系が分布の南限となっており、石下等から見いだされる。

【主要文献】

田添京二(1977)福島県産甲虫覚書(その九)。福島生物, (20): 1-5.

希少 コウチュウ目 オサムシ科

ヤミゾメクラチビゴミムシ

Kurasawatrechus yamizonis S. Ueno

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少 c 孤立した分布特性を有する

【形態】 体長3mm内外。体色は透明な暗赤褐色を呈している。この*Kurasawatrechus*属は近似種が非常に多く知られており、県内でも本種の他に数種の分布が確認されている。

【分布】 茨城県と栃木県の境にある八溝山周辺のみ見つかった。

【県内の分布、生息状況】 八溝山の棚倉町側からのみ見つかった。沢の露頭の湿った土中より見いだされる。

【主要文献】

上野俊一(1988)The *Kurasawatrechus* of the Yamizo Range, Central Japan. ELYTRA, 16(2): 107-116.

希少 コウチュウ目 オサムシ科

ゼンバメクラチビゴミムシ

Kurasawatrechus zenbai S. Ueno

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少 c 孤立した分布特性を有する

【形態】 体長3mm内外。体色は透明な暗赤褐色を呈している。外部形態はヤミゾメクラチビゴミムシとほとんど変わらないが、雄交尾器の形状などで区別される。

【分布】 今のところ、福島県古殿町の基準産地からしか見つかっていない。本種も前種と同様、沢の露頭の湿った土中より見いだされる。

【主要文献】

上野俊一(1990)Occurrence of a New *Kurasawatrechus* at the Central Part of the Abukuma Hills, East Japan. ELYTRA, 18(2): 175-178.